

育夢学園学童教育「はぐくむ学童」

# “はらはちぶんめ” No. 56

2011/9/26(月) 発行・文責 理事長 長坂徳久

※「はらはちぶんめ」は、おおらかに、ゆとりを持ってのびのびといこうよ、という願いからつけています。

## 【合掌 心からのご冥福をお祈りします】

丸山裕也くん(3年生)、丸山映奈ちゃん(3年生)のお母さんが、ご病気のためご逝去されました。謹んで、ここに哀悼の意を表し、心からのご冥福を深く祈念いたします。

約1年前、長坂はお母さんから病状(ガン)を打ち明けられました。それは、「学童にはお世話になる時間が増えると思いますから・・・」ということからです。

反対に、学校や他の方々には言いません。とお母さんは言いました。それは、第一に「子どもたちの耳にいれたくない。」ということからだったのではないかと思っております。

そんな中、内緒で入院したり、実家で看病してもらったりと、お母さんは家を空けることが多くなりました。

周囲の方たちの中には、事情を知らず、急に姿を見なくなったので、揶揄する人たちもいたようです。

お母さんの気持ちは、「子どもたちのために・・・」「子どもたちのためにも・・・」ということだけだったのです。

丸山映予(てるよ)さん、いままでありがとうございました。心より感謝を申し上げます。合掌

お通夜の日が、学童の「ぶどう狩り」の日でした。(中止にいたしました。)

お母さんのお父さん(二人のおじちゃん)が、お通夜のあと教えてくれました。

「子どもらは、ぶどうがりを楽しみにしていてね・・・」

ママはぶどうが好きなので、ぶどうをいっぱい病院に持って行ってあげるんやって言ったのに・・・」  
そう言っておじいちゃんは涙ぐまれました。

お葬式の最後、子どもたち二人からの手紙が代読されました。

「ママ、ぶどう食べられなかったね・・・」

それを聞いた瞬間、指導員一同、号泣してしまいました。

(以下は、長坂のブログ(9/23 より))

保護者が亡くなりました。

長坂と同じ歳。

はぐくむ学童(学童保育)三年生の姉弟(双子)のお母さん。

一年間に及ぶガン闘病。

なんとか治って欲しかった。

子どもたちのためにも。

一年前、「長坂先生にだけは言うておきます」とおっしゃって、病状を打ち明けてくれた。

「ガンなんです。手術はできないんですよ。」

かける言葉がなかった。

「あきらめないで下さい。」

そんな言葉しかかけられなかった。

「はい、まだ子どもたちも小さいので…最後まであきらめません。」

お母さんの希望で学校にも、他の学童指導員にも病気であることも伏せてきた。

なんとか治ってほしい。

いや、医学は進歩している大丈夫だ。

そう信じてきた。

その双子の子どもたちのことが毎日気にかかった。

でも、彼らは一生懸命にがんばった。

お母さんの病気のことも口に出さなかった。

ただただ、健気だった。

本当はすごく寂しかっただろう。

辛かっただろう。

声を出して泣きたかっただろう。

彼らは我慢してきた。

しかし、数回、いっぱいいっぱいになったのか、爆発してしまうことがあった。

知っているだけに長坂は切なかった。

ただ見守って、あたたかく包んでやることしかできなかった。

子どもたちも言葉には出さない。長坂も言葉には出さない。

でもお互いにわかっていた。

人の世は、無常である。

そんな健気な二人を残してでも、天はお母さんを連れていってしまった。

なんで？

なんでなん？

まだこれからやんか。

今日、指導員を伴い、お悔やみに行った。

安らかな寝顔だった。

お母さん、ゆっくりおやすみください。

心より、心より、ご冥福をお祈りしております。

微力ながら、二人の成長を支えていきます。

それだけはお約束いたします。

だから、どうか、ごゆっくりと安らかにお眠りください。

今まで、本当にありがとうございました m(\_)\_m

謹んで哀悼の意を表します。

合掌